



114
A 3393

以書背字額上



一 迎年不川沖也先陽等中山分年之海若淺深
相成通和甚種流仕修之 大忍之分守之不川沖之
古怨之漱石仕山修之天守合或之風之門之兼不
邂逅暴風也之荒波之良名水打也難取也
有之官屋也之西之山也之年之秋矣不共又也

大正十一年四月
大隈侯郵寄贈

ありて入費も亦定むる諸事出展にもお尋ね申す
一様々裏濕を生し山をとりたる所及び高嶺に
ありて川波の急なる船浮橋社右海岸山見湯
佃崎の地積と漸切海波方位及びその山見湯船
稼ごとのあり申す申す一因に諸の諸事出展も
相拍りし候所難有申候なりと申す候なり此候

右とを渡の方仕致し山委任事申す申す
船の上も申す申す新親親承事なり此所十年申す
地代に最中右地代におりて貸物に建相事なり
渡世の致有地代を以て入用門去りて申す申す
船の上も申す申す山渡お申す地代上船可仕り
此所社中一統評候し上と稱す候事

許學家社及下在許學海之社一同依而也
預示以上

己九月

高社

會所



